



令和3年度 第9回共同機構研修会

令和3年10月29日(金)

困りを持つ子どもとその保護者への支援

坂本 理 こどもみらい館事業課担当係長

人は、ノンバーバル(非言語)なコミュニケーション手段をベースに生活しています。しかし非定型発達の子どもは、ノンバーバルなコミュニケーションが苦手なことが多く、そのために生じる『困り』から大人の『困り』そして関係性の負のスパイラルに陥りやすいと言えます。しかし、伝わらず応えてもらえなければ、誰でも手の付けられない表現の仕方をせざるをえないのです。発達障がいだからではなく、伝わらないから癩癩をおこすのです。また、保護者へも「子どもが困っている。だから一緒に考えていきましょう」と『困り』の視点からアプローチしていくと伝わりやすいでしょう。

児童虐待によって『困り』を抱える子どももいます。直接暴力を振るわれるような虐待区分ではないネグレクトであっても、後の問題行動に重大な繋がりがあります。乳児期は恐怖や不安に出会ったとき、愛着関係にある大人に関わってもらった中で、徐々に負の感情を統制し安心感の中で生きていけるようになるからです。ネグレクトの状態が続くと負の感情の中で過度の緊張状態に置かれ、それが特別なものだと感じず危険なことをしたり、他者の持っている負の感情にも気づきにくくなります。トラウマ反応は、リマインダー(過去のトラウマ場面に似た刺激)をきっかけにフラッシュバック(場面がリアルに蘇る)が起こり、問題行動へとつながります。急に乱暴な行為をする場合、頭の中ではトラウマ反応が起こっていることがあります。それを理解しないまま、叱責や禁止をしても、自責感や不信感、孤立感に繋がっていきます。支援者の叱責や問題行動を無視して強化しない等の関わりが、過去の虐待経験を想起させ、さらにトラウマ反応を誘発する場合があります。

トラウマインフォームドケアは「トラウマによって生じた症状や行動を、危機時における正常な反応で適応のための対処と捉え、脆弱さよりストレンクス(強み)に着目する」という考え方です。まずは寄り添い、その子どもを理解しようとしてください。わかってもらえれば心の安定に繋がります。そして自分の感情に気が付けるように、早い時期から言葉で気持ちのラベリングをしてあげる事が有効です。しかしトラウマがあろうとなかろうと、どんな子にも指導やルールは必要です。むしろ、個人の権利を守られてこなかった子どもにこそ、お互いの安全を守るルールの存在についてきちんと教える必要があります。

世界の音楽シーンを席卷したスティーヴィー・ワンダーが子どもの頃、教室で飼っていたネズミが逃げ出しました。先生は「人並外れた耳を持っている彼を見つけ出してもらおう」と話します。目が見えず自分は人の手を借りなければ何もできないと思っていた少年が、周りから認められ自信を得てまい進みます。先生というのは、金の卵と日々向き合い奇跡を起こせる素晴らしい職業です。

私たちは、子どもが“一緒に生きてくれる人がいる”と思える社会が作られることに、力を注いでいかなければなりません。乳幼児期には、大人が全身で向き合い「この先、決して楽しい事ばかりじゃないけど、心から嬉しくて楽しい瞬間もいっぱいあるよ。大好きだよ！」という事が身体ごと味わえる時間を沢山持てるよう関わることが、未来を生きる乳幼児へ送ることの出来る強い強いエールではないでしょうか。

『往還型の研修，始めます～保育環境のアイデアを学び合おう～』

講師：古賀 松香さん（京都教育大学教授）

好評の公開保育研修がコロナ禍で開催できず悩んでいたところ，講師の古賀先生から「コロナ禍の中，緊張感をもって保育に取り組んでいただいている先生方にエールを送りたい。このような状況下での子どもたちのことや保育のことを考えましょう」と今回の『往還型研修』をご提案いただきました。

緊急事態宣言中のため，集合研修は中止としましたが『今，できる研修の在り方』を考え，講義動画の視聴やグループ討議にかわるレポートでの交流など，古賀先生と参加園の先生方との熱い思いで実現することができました。

参加園（所）

- 青い空保育園 ○京進のほいくえん HOPPA 西京極
- 下京ひかり保育園 ○朱一保育園 ○認可保育園 こども芸術大学 ○うづらこども園
- こども園ゆりかご ○東野こども園 ○にじのうた保育園 ○小規模保育園「キコレ」
- 家庭的保育事業 おとわ乳児園 ○洛和桂川小規模保育園 ○伏見いろどり保育園
- 楽只保育所 ○養正保育所 ○三条保育所 ○壬生保育所 ○辰巳保育所 ○久世保育所
- 弓削保育所 ○周山保育所 ○佛教大学附属幼稚園 ○安井幼稚園 ○上賀茂幼稚園
- 乾隆幼稚園 ○西院幼稚園 ○伏見板橋幼稚園 ○深草幼稚園

研修の主な流れ

① 事前レポート提出

各園で保育の悩み・課題を話し合い事前にレポートを提出していただきました。



異年齢，落ち着かず戦いごっこになる

発達の差が大きく，それぞれの遊びが保障しにくい

ワンフロアでの食事，午睡，職員の休憩，子どもの安全，衛生面が心配

遊びこめる環境がない。おもちゃを投げるので，静止することが多くなる

朝夕，長時間保育の子どもたちも使うため1歳児に合わせた環境作りがしにくい

コーナーの作り方に悩む

コーナーを作り好きなおもちゃをとれるように配置しているが，おもちゃを次々出したり，他の子どもの遊びに割ってはいたりする現状では，個々の遊びが保障しにくい

年齢に合わせた環境づくりがしにくい

密を避け，子どものイメージした環境が作りにくい

遊びと生活の空間をどうつくるか

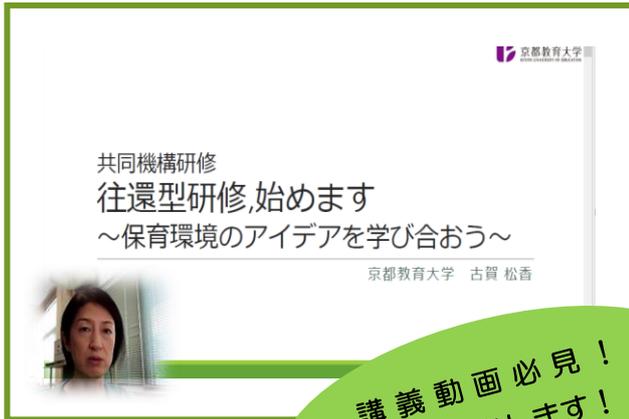
他に目が行き，知育などに集中できない

友達とのつながりを感じ一緒に遊ぶことを楽しめようようにしたい

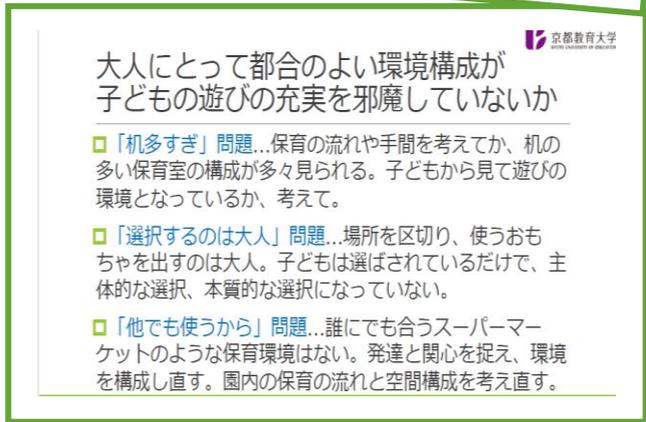
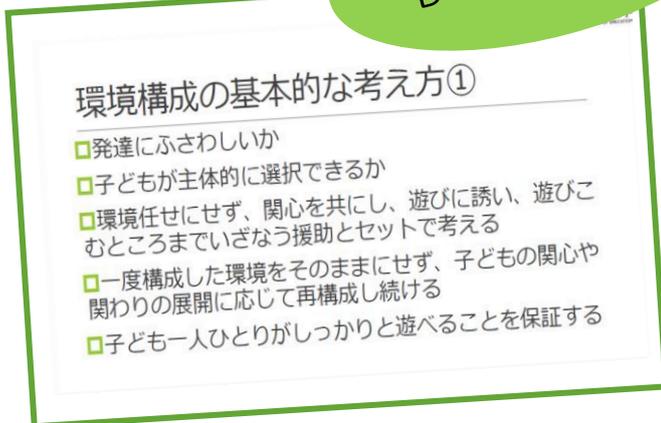
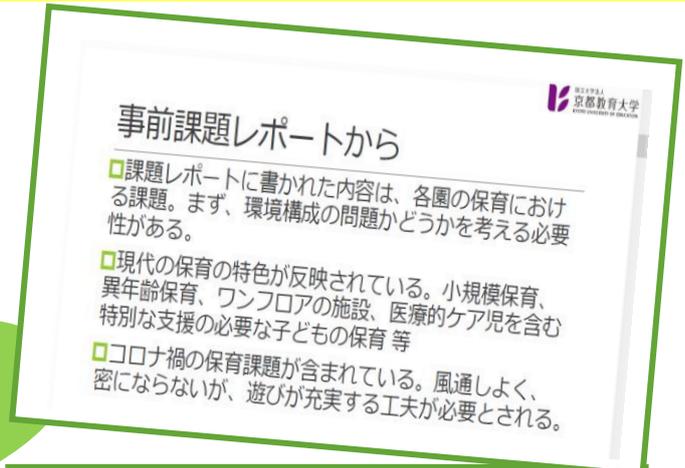
異年齢の関りを広げ遊びが充実する環境

♡その他にも課題がたくさんあり，子どもたちが安心して好きな遊びを楽しめるようにと，日々先生方が取り組んでおられることがひしひしと伝わってきました。

② 講義動画視聴・参加園からのアドバイスをもとに、園内で話し合う



講義動画必見！
DVD 貸出します！



③ 事後レポート提出（自園（所）の保育をよりよくするために、環境構成、保育の在り方など継続的に取り組めるように園内で話し合われました）終わりに、いただいた感想を紹介させていただきます。（紙面の都合上、皆さんの感想を載せられず申し訳ありません）

今回の研修では、自園の悩み事のほかに、他園の悩み事などが分かり、同じ年齢のクラスで似たような悩みを持っている園があったりすると、とても関心が持てました。レポートでは、自分の悩みを他園の先生方が親身になって書いてくださって、とても参考になりました。自分のグループだけでなく、他園の環境構成の内容もすべて拝見してもらい、自分の保育と照らし合わせ考えるいい機会にもなりました。今回はレポート形式でしたが、実際に会い、話していたらもっと深い話が出来たのではないかと思います。

また動画研修も、とても分かりやすい内容であり、自分の保育内容を見直すきっかけにもなりました。環境構成を考える事の大切さを知り、実際に環境構成を、子ども主体に考えてそれぞれの年齢や発達に相応しい環境をクラス内でも話し合っています。子ども達が、もっと遊びたい！もっと学びたい！と思えるような保育と環境構成をこれからも提案し、実践していきたいと思いました。

発達と関心を捉え、環境を考え直し続けることで、子どもが“おもしろい”“もっとあそびたい”と思ったり、主体的に遊べると改めて感じた。今、子どもたちが求めていること（大人との関わり、興味のある制作など）にしっかり向き合い応えていくことで、充実した園生活になるよう支えていきたい。

また、異年齢保育で課題に感じていることを、書面ではあるが共有する機会になりよかった。対面で話し合える研修の再開を待ち遠しく感じた。

参加園（所）の皆様、長期間の研修ありがとうございました。

ヒトの育ちを科学の視点で理解する ～コロナ禍において大切にしたいこと～

明和 政子 京都大学大学院教授

ヒトという生物は、長い進化の過程で環境に適応しながら今のような身体を獲得してきました。ところが今、子どもたちを取り囲む環境や子育てをする環境が激変しています。

コロナ禍では新しい生活様式が求められ、身体接触や顔と顔を突き合わせて関わるのが難しい現状です。様々な実験から、赤ちゃんにとって触れられるという身体接触経験が、脳の発達を牽引する重要な役割を果たしていることがわかってきました。また他者の口の動きとそこから発せられる声を通して言語を獲得し、顔全体の豊かな動きから喜怒哀楽や共感する心が育っていくことにも繋がっていきます。子どもたちにとって、この新しい生活様式の影響を考えていくことが大変重要であると考えます。そして、子どもたちがサイバー空間で過ごす時間が更に増えていくでしょう。サイバー空間の中で私たち大人がそれなりにうまくやれるのは、フィジカル空間の中で豊かに経験してきた時期があったからです。乳幼児期の脳の発達には他者との身体接触経験が不可欠です。サイバー空間ではできません。そして乳幼時期の環境と経験が、その後の脳と心の発達に大きく影響することもわかっています。これらのように、これまで保育の現場で当たり前にしてきた子どもたちの脳と心を守る環境が難しくなっています。ここはぜひ家庭でしてほしいと伝え、親の意識を高める機会にさせていただきたいと思います。そして子育ては褒めてもらえる機会が少ない営みです。頑張っておられる親御さんをぜひ褒めてあげてください。きっと親御さんの子どもを守りたいという意識が高まるはずですよ。

赤ちゃんは抱っこされておっぱいをもらうことにより、体の中に心地よい感覚が湧き立ちます。そのタイミングでいつも見聞きする声や笑顔と結びつくことにより、おっぱいをもらわなくてもいつもの声や笑顔を見聞きするだけで安心感に包まれるようになります。それが科学的なアタッチメントの説明です。対象者は母親である必要はなく、父親でも血縁関係が無くてもよいのです。ヒトは脳が成熟するのに25年かかります。一方、身体の成熟は15歳頃です。母親が子どもを産むという役割を担ってはいるものの、育てるという営みについては脳が成熟した仲間集団と協働で養育することで進化してきたと考えられています。それを可能にしたのは、ヒト特有のメンタライジングと呼ばれる認知機能です。自分の気持ちだけでなく相手の気持ちまで理解することを可能にする前頭前野の働きです。つまり相手がどのような状況に置かれているのかを推論し、どのような支援をしたらよいかを考えることができます。ヒトは協働養育が必要だからこそメンタライジング、前頭前野がこれだけ急激に発達してきたという考えが主流になっています。しかし今、核家族化が進み、母親が一人で子育てをする時代となりました。これはヒトがヒトとして進化してきた環境と大きく乖離しています。最新のエビデンスにおいて、親として必要な脳の発達に性差がないことがわかっています。旧来の母性や父性という概念的な見方を越えて親性と呼ぶのがふさわしいと考えています。現代版の協働養育をどのように復興させるのか、子育てというものについて真剣に考える時代を迎えていると思います。

保育という営みは一般的に誰にでもできるといった誤った認識が流布しているように感じています。子育てや保育には解がなく、ルーティンワークでもありません。子どもが置かれた状況を見定めながら、この子に今何をすることが必要なのかということの前頭前野の活動をマックスにしてイメージしながら意思決定をする大変知的な活動です。先生方が担っておられる保育という活動が、親にとっても社会にとっても重要であり、社会的な地位をもっと高めなければならないものであると考えています。

*上記の要約は、講義をもとに編集したものです。(文責：柳生和代)

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。

[京はぐくみ憲章]より



この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ！



発行日 令和4年2月16日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
Tel : (075)254-5001 Fax : (075)212-9909
URL : <https://www.kodomomirai.city.kyoto.lg.jp/>